



**和歌山大学教職員組合**

[内線]7989 [tel/fax]073-452-3671

[mail]wakumi@cypress.ne.jp

[HP]<http://www.cypress.ne.jp/wakumi/>

第5号 通算63号 2012年12月20日(木)

## 退職金減額問題

### 学長・大学は誠実な態度で交渉・説明を行え！

「くれない News」前号でもお知らせしましたが、11月28日に行われた三者懇談会で、大学側は国家公務員にならった退職金の減額を提案してきました。その場では組合・過半数代表委員からの強い異論もあり、本年度定年退職者についての緩和措置を講ずるとして、役員会に持ち帰りとなりましたが、12月6日に行われた教職員への説明会では、本年度退職者について一定の緩和措置を検討するとしつつ、本則については国家公務員同様の減額を行うとの説明がなされました。

昨日(12月19日)、この件での2回目の三者懇談会が開催され、本年度定年退職者については、現行の支給率1.04を1.00とする(当初提案では0.98。定年以外の本年度末退職者については緩和措置なしの0.98)ことが再提案されました。その上で、同提案を含めた退職金規程の改定を行い、1月1日づけで施行するというのです。

しかし、この間の経緯において、大学側の態度はまったく不誠実なものと言わざるを得ません。退職金の減額は言うまでもなく重大な不利益変更です。増して、既に勤務した年に遡っての計算方法の変更は、労働者の既得権の侵害にあたり、不利益不遡及の原則にも反します。こうした重大な不利益変更を提案するにあたり、①そもそも提案から実施までの期間がきわめて短い、②労働組合とも過半数代表者とも合意に至っていないという重大な問題があります。それにも関わらず、19日の三者懇談会には学長も理事も出席せず、大学側の決定権限をもった責任ある者は誰もいませんでした。

12月6日に行われた「説明会」にも学長は出席していません。当日説明と質疑応答にあたった盛本理事は、12月末をもって本学理事を辞することになっています。このようなことで、大学側として事の重大さに応じた誠実な態度で説明にあたっているとと言えるでしょうか？

また、この説明会は勤務時間中に一方的に時間を指定され、栄谷キャンパス内で行われたものであり、当然、附属学校やサテライトに勤務している教職員は参加が難しかったはずですが。栄谷の事務系職員についても、開催日時の通知がされただけで、通常の勤務を免ずる措置はとられておらず、参加を促す指示もなされていません。これでは到底、本学教職員に対して丁寧かつ誠実な説明の機会がもたれたとは言えません。

この問題では三者懇談会こそ行われていますが、その場に決定権限のある大学側の出席がないのでは、交渉の場がもたれたとは言えません。仮に大学側が1月1日の施行に固執するなら、少なくとも年内に学長が出席して交渉を行う場がもたれなければ、不誠実交渉の誹りは免れません。

## 退職金減額の1月1日実施は撤回せよ

退職金規程の改定・1月1日施行を行うには、年内に再度交渉の場をもち、組合・過半数代表との合意形成の努力を行い、かつ関係する全ての教職員に対して丁寧な説明の場を設け、特に本年度退職予定者にたいしては全員に具体的な説明と質疑の機会を設けることが、**大学側が最低限しなければならないこと**です。しかし前述のように、この問題には法的な観点からも重大な疑義があり、そう簡単に学内の合意形成はできないでしょう。日程的にも上記の交渉・説明を年内に行うことはきわめて困難と思われます。

大学・学長が取り得る選択肢は、労働法規にある不利益変更の周知義務、組合や過半数代表者との誠実交渉義務に則るならば、**1月1日施行をあきらめることしかありません**。

実際、北陸のある国立大学では、労使交渉の結果1月1日実施を大学側が断念したという情報も入ってきています。学長が本学教職員に対し誠実な態度を見せ、1月1日実施を撤回する英断を行うことを強く求めます。

### 学内教育研究集会に参加しませんか？まだ間に合います!!

日時：2012年12月22日（土）14:00～16:30      場所：教育学部本館棟 中-305

内容：和歌山大学の大学改革を考える

#### —大学改革カウンター・プランの可能性—

- 14:00～ ・執行委員会報告
- 14:30～ ・問題提起      **経済学部 中島正博先生**
- 15:30～ ・討論
- 16:15～ ・執行部まとめ

#### 「大学改革プロジェクトチーム」の発足

給与が一方向的に削減され、退職金も大幅に減額されようとするなか、一方では事務組織の改編や教員組織改革、「ダブルミッション」化を含んだ私たちの働き方に直結する「大学改革」が動き始めています。大学執行部は「職員が働きやすいように」「意見を聞きながら」進めるとしていますが、これまでのところ、私たちの声が改革に十分に反映されているようには思えません。

今年の学内教研ではこの問題に焦点をあて、私たちの望む和歌山大学のあり方を交流し考えるとともに、大学改革の「カウンター・プラン」を提起していく第一歩としたいと思います。

